No.
Date. '26. 9. 16

Capo. 4 ハーフル D

F#

あの道 あの景色

D Bm G A D Bm G A

D Bm Em A
長い雨がしばらく続いた日々の後で
D Bm G A
いつの間にか夏も過ぎまっていた
D Bm G A
ふと見る遠くの灯り冴えわたり届く
Em Bm G A D
すっかり冷たくなる早い夜の訪れ

Bm Em A Bm
夕闇降りてきた静かに
Bm G A D
誰も通らない抜道
Bm G A D
思い出される あの道
Bm G A D
「また明日」と手を振った

D A Bm G
思い出すことしかできない
Em D Em A
あの道のあの景色の中
D A Bm G
☆ 戻らない時 置き去りにして
G D A D A
心がそのまま止まっている ☆☆

No.
Date.

アスファルトのスキ間からスズメノカタビラが
草刈りした後 元気に伸びていた
ふと見る近くの灯りオレンジに光って
寂しく影を引きずる早い夜の訪れ

秋風の匂いを感じて
胸の奥チクリと痛む気がした
思い出されるあの道
「また明日」と手を振った

あの夏の引き返せない季節
あの道のあの景色の中
今はもう思い出すだけ
並んで歩いたあの道

☆～☆☆

No.
Date. '26. 10. 19

Capo. 5 イーブル G
Capo. 0 オープン D

途方もない時間

☆まだほんとに何も
知らなかった日々が ☆☆

地下鉄の延長の
高架を走る電車
ビルのスキマから ＞ 青
光る緑の中に

昔の終点の千里の丘から
ひとつ前の駅向かって歩く

時を超えても満ち着いた風景
思い出すあの頃の期待と不安

途方もない時間 ゆるやかに景色を変え
若かったあの頃にタイムスリップ
時代のページめくりながら
懐かしい軌道をたどってる

No.
Date.

＊昭和の終わり遠い日のざわめき＊＊

新御堂の真ん中
高架を走る電車
ビルが建ち並ぶ
駅に戻ってきた

現実に戻る新大阪から
ふたつ前の駅降りて歩く

いつも立ち寄るギターの店で
久しぶりに眺める類稀なもの

途方もない時間 ゆるやかに好みを変え
若かったあの頃より深みを求めてる
時代のページめくっても
大切な記憶は色あせない

（☆～☆☆ ＊～＊＊）

No.
Date. '26・10・26

Capo. 4 ノーマルAm
Capo. 2 オープンD

C#m

冬支度

Am C F G C Am C F G C
Bm 0 5 7 0 Bm 0 5 7 0
Am C G Am F
Bm 0 7 Bm 5

庭木まとっていた緑　　脱ぎ捨て
G C
厚手のあったかいくつ下　　引っ張り出し
Dm Am G Am F
そっと襟を立ててする　　マグカップ
G F
熱いラテの湯気が　　白く窓をかすめ

C
これまでに過ごしてきた　　今過ごしてきた
Dm G C
賑やかな時が
C
遠ざかる寂しさの
G C
なかで巣ごもりの準備
Am C Dm F Dm F
Bm 0 5 5 5 5
ひんやりと　　ひんやりとした庭の隅の中で
G C
この頬に　　この頬にあたる次の季節の風
Dm F Am C G Am
5 5 Bm 0 7 Bm
心を澄ませて整えてゆく

No.
Date.

重たい荷物を手放して　そっと
この身も心も軽くして　そして
残された時間愛おしんで　行くために
勇気を確かに持って　行こう

これまでに歩んできた　足跡を信じる
訪れる未知の静寂　踏み出す一歩の準備

たくさんの　いくつもの長い年月を重ねて
過ぎた日々　その後に訪れる静かな孤独
心を澄ませて　整えてゆく

厚手のカーテン閉めたなら　部屋の中
揺るぎない灯りがともる　さあこれから
そこにある冬を迎えに　行くために
あったかな心を持って　行こう

No.
Date. 26・10・9

Capo.0 ノーマルC

C

金色の風

C F C G
坂道を白い車が
C F C G C
梢のトンネル息を弾ませ
Am G F Am G F
Am G F Dm G G7 C F7
ほんの少し窓を開ければ
Am G F Dm G G7 C G
金色の風そっと髪をかすめて
Am G
小刻みなカーブ巻いてゆくたび
F C Em
色づく木の葉体を揺らし
Am G
笑ってるように流れるように
F C Em
この心も撫でてゆく

C F
これからゆくみち
G C
知らないけれど
C F
このままこの風と
G G7 C
走っていたい

No.
Date. . .

坂道を白い車が
梢のトンネル息を弾ませ

山深くなり静寂が広がる
金色の風そっと冷たくなって
小刻みなカーブ少なくなって
明るくなってきた途端
ごほうびのように開けたところ
この心も弾ませてゆく

これからゆくみち
知らないけれど
このままこの風と
走っていたい

No.
Date. '24. 11. 14

Capo.0 オープン Gm
Capo.5 ノーマル Em

Am

冬枯れの道端

2 0·
Em D

*強い北風が吹き 積もる前の雪が
10· 9·
C B7
すっかり飛ばされた 思い道に
2 0·
Em D
どこからか飛んできた 数枚の若い落葉
10· 9· 2
C B7 Em
地上に落とされて ためらいがちに **
2 0·
Em D
あと一枚だけになった カレンダー
10· 9·
C B7
いろんな かかわり少なくなった今は
2 0· 10· 9· 0·
Em D C B7 D7
過ぎ去る 今年の少なさ 感じる

5· 10· 7 0·
G C Am D
*寒さにも負けずに 冬枯れの道端の
5· 10· 7 0· 5·
G C Am D G
ここに咲く小さな花 何ていう花かな **

強い風にあおられて 舞い上がる落ち葉が

乾いた音をたてて 転ぶ脇の

歩道の隅っこに 積もった古い枯れ葉

行き場を失って 申し訳なさそう

頼もしい横目で 見るイベント

いろんなかかわり少なくなった今は

楽しむことより さみしさ感じる

(*～**くりかえし)

けなげな姿に 勇気づけられて

やるべきこと見つけ To do. リストに

(*～**くりかえし)

No.
Date. . .

No.
Date. 23・10・6

Capo.3 G
Capo.1 オープンD

B♭

ひだまりの中

7 0 2 7 7 0 2 7
G C D G G C D G

F#m 2
Em D
ひだまりの中に
Bm 0 2
Am C D7
長い影が伸びて
F#m 2
Em D
小春日和の道
Bm 2 F#m
Am D7 Em
帰り花を見つけた

7 2
G D7
咲くはずのない季節に
Bm 7
Am G
わずか三輪ばかり
7 Bm 2 7
G Am D7 G
儚いほどの美しい姿に出逢って

No.
Date. ・ ・

ひだまりといえども

時折ふく冷たい風

それを忘れさせるような

暖かな日もちに

咲くはずのない季節に

ほころぶつぼみ見上げる

こんな僕にも春がいつか来るよと。

No.
Date. '26. 11. 1

Capo.5 ノーマル G
Capo.5 オープン D

C

いくつもの冬を迎えて

☆ G5 D0 Em5 Bm Bm
いくつもの春が過ぎ去って
Am10 G5 D0 D7
いくつもの夏が終わって
G5 D0 Em5 Bm
いくつもの秋を感じて
Am10 G5 D0 G5 D0 (G D G DGD ×4)
いくつもの冬を迎えて ☆☆



G5 Bm C10 D0 G5 Bm C10 D0
人は皆少しずつ忘れてく記憶の中で
G5 Bm C10 D0 Am7 D7 C10 G5
大事な何か抱いては生きてゆくのだろう

Em5 Bm D0 Am10 C10 G5 B7
あの日の空の色も聞こえてた笑い声も
Em5 Bm D0 Am10 Bm G5 D0
今では頭の隅淡く揺れてる

G5 D0 C10 G5 D0
若かった日々の夢はいつしか形を
G5 D0 C10 G5
変えてしまったけれど消えずに残っている

☆～☆☆

(G D G DGD) ×4

雪が降るある朝には 懐かしい人の面影
風が吹く冷たさに 過ぎた季節感じる

あの日に戻るのでなく あの日があったことを
静かに抱きしめて 生きてゆきたい

枯れ枝の先に 小さな芽吹きが宿る
人の心もまた 新しく変われる

私は今日も 白く染まる道を
まだ見ぬ春があると 信じて歩いてゆく

☆～☆☆

ラララ